

《議 題》

- | | |
|---------------------------|-----------|
| (1) 観光及び空港に関する調査 | 【所管事務調査】 |
| (2) 地元企業の活性化及び産業間連携に関する調査 | 【所管事務調査】 |
| (3) 農林業及び畜産業の振興に関する調査 | 【所管事務調査】 |
| (4) 公共交通について | 【質 問 通 告】 |

《当該委員会における質疑内容（岡坂忠志）》

1 第34回国際農業機械展について

Q1 国際農業機械展について、改めて参加国数や出展数など概要について伺う。

A1 4年に一度を目処に開催されてきた国際農業機械展は、北愛国交流広場を会場として、国内外から20万人の入場者を迎える地域最大級のイベントであり、今回は、7カ国の海外出展を含む134社・団体の出展があった。

今回の国際農業機械展では、GPSやICT、ロボット技術等を活用した最新鋭の農業機械が展示されており、来場した市民にとっても、成長産業としての農業や関連産業の一端に触れる貴重な機会となったと考えている。

また、同会場において、十勝の農業、食と観光をテーマにした、フードバレーとかち食彩祭の開催や、オールドトラクター保存会による特別展示などが行われ、安全安心な農畜産物を数多く産み出す、日本の食料基地として発展してきたこの十勝・帯広の魅力を幅広く周知できたものと考えている。

Q2 当日、会場内には、国内外のメーカーによる最新の農業機械が展示されていたとのことだが、こうした技術的進歩により、これまでの農業がどのように変わっていくのか。

A2 例えば、今回の展示会の開会式で披露された、いわゆる「トラクターの無人化」は、国が整備を進めている日本版GPS「みちびき」により、将来的には位置情報の誤差が数センチ程度になるなどの技術革新が背景にあり、これらを基盤として、現在、国内外のメーカーにおいて、GPSガイダンスやリモートセンシングなど精密農業技術の研究が進められている。

労働人口が減少し、今後、農業分野においても担い手不足が懸念される中、こうした技術を活用することで、農作業の一層の省力化・効率化が可能となり、産業としての農業の持続的な発展に寄与するものと考えている。

Q3 技術革新などが進む中、農業機械メーカーは製品開発などを行っているとのことだが、行政として、企業の取り組みをどのように支援しているのか。

A3 工場の増設等の際の企業立地補助金や制度融資、また、地域未来投資法や生産性特別措置法による固定資産税の免除、また、製品開発の際に財政支援を行うものづくり補助金など、企業側のニーズに応じて幅広く支援メニューを揃えている。

また、十勝には、北農研芽室拠点、十勝農試、帯広畜産大学、とかち財団など、試験・研究機関等が集積しており、先端技術の動向などの情報を有していることから、こうした機関と連携しながら、地元企業向けの勉強会を開催するなどの支援も行っているところ。

これまでも、平成28年度に、企業立地補助金の対象範囲を拡大するなど制度の見直しを行っており、今後も、企業のニーズや先端技術の動向なども踏まえながら、支援メニューの改善などを図ってまいりたい。

Q4 報道によると、今回の国際農業機械展も、多くの企業・市民が参加する中、盛会のうちに終えたとのことだが、イベントを終えて、感想と今後の課題について伺う。

A4 期間を通じて20万人を超える来場者があり、地域のイベントとしても定着したものと考えている。また、大きなトラブルが発生することなく、地域の一大イベントを終えることができたことに安堵している。

一方で、先月末から続いた天候不順により、会場である北愛国交流広場において、雨水の浸透が間に合わず、至る所に水たまりが出来、出展者や来場者に不便をかける結果となった。

また、会場内は乗用車の乗り入れを禁止し、シャトルバスによるピストン輸送を行ったが、混み合う朝方と夕方の時間帯は1時間以上の待ち時間が発生するなどの問題もあったところ。

今後、実行委員会内で課題の整理を行っていくが、次回開催に向けて、改善できるものについては、しっかりと対応してまいりたい。

2 フードバレーとかち食彩祭2018について

Q1 国際農業機械展と同時開催された「食彩祭2018」の目的について伺う。

A1 本イベントは、国際農業機械展に訪れた方々に十勝の食と観光の魅力を国内外に発信し、食材や特産品の販路・消費拡大、観光客誘致の促進をはかるために開催するもの。

Q2 イベントの内容、出展数などの規模や前回との比較でどうだったのか。

A2 食彩祭については、公募により出店者を決定したところであり、最終的に前回より10店舗ほど多い約50店舗の管内の飲食店などが出店した。

売上金額はまだ集計できていないが、飲食は豚丼やご当地グルメ、物販は農業機械のミニチュアの人気が高かった。

また、十勝観光連盟と連携し、会場内に観光案内所を設置し、十勝の観光PRも行ったところ。

Q3 機械展自体が国内外にPRする場であることを考えると、地元十勝・帯広をしっかりと売り込む必要があったと思うが、十勝の食をPRするための仕掛けは何か行ったのか。

A3 今回は、すべてメニューに十勝産食材を必ず使用することを出店条件とし、関係者で構成する食彩祭実行委員会において、出店者はもちろんのこと、メニューについても是非を協議し、出店者を決定した。

出店者に十勝産食材を活用する工夫もしていただきながら、来場者に十勝産食材のPRを行ったもの。

Q4 食彩祭も終わったばかりだが、終了後の市の所感は。

A4 会場内のイベントとしては、キャラクターショーや歌謡ステージなどを行い、家族連れを中心に多くの方に楽しんでいただけたと感じているところ。

また、来場者からは、テーブルやイスが不足していたことから、ゆっくり食事を楽しめる場所が少なかったなどの声をいただいている。

今後、関係者と実施結果について内容の把握に努め、次回に向けて活かしていきたいと考えているところ。

3 公共交通について【質問通告】

Q1 「帯広市地域公共交通網形成計画」に基づき何点か伺う。計画は平成29年度から平成33年度までの5年計画であるとともに4本の基本方針で構成されている。平成29年度実績で目標値に対する達成度はどうなっているのか。また、仮に目標値に到達していない項目があるとすれば、課題はどこにあると捉えているのか。

A1 網形成計画においては、7つの指標を設定している。そのうち、「路線バス利用者数」「あいのりタクシー・バス年間利用者数」「バスパック年間利用者数」「ノーカーデー年間参加者数」の4指標については、実績値が目標値を上回り、順調に推移している。

目標未達であったのは、「通学定期券年間販売数」「バスロケーションシステムの外国語表示閲覧数」「70歳以上の路線バス利用者数」の3指標。

「通学定期券年間販売数」は、目標値に対する達成率が89.0%であり、十勝管内の高校生数が基準年より減少していることが主な要因と考えている。

「バスロケーションシステムの外国語表示閲覧数」については、目標値に対する達成率が62.8%であり、バス事業者が提供しているバスロケーションシステムをより利用しやすくするために改善し、周知を図っていく必要があると考えている。

「70歳以上の路線バス利用者数」は、目標値に対する達成率が97.7%であり、ほぼ目標値に達していると考えている。

Q2 (29年度の実績については理解した) 2問目以降は項目ごとに、特に平成30年度から実施、又は運用スタートとなっている項目を中心に伺う。

まず、基本方針1「公共交通のサービスレベルの向上」の主要課題であるバス路線の再編とダイヤの見直しについて、平成29年度はどの程度見直ししたのか。また、平成30年度は10月以降見直しを実施する予定であると過去の答弁の中で明らかにしているが、現時点での検討状況と見直しはどうなっているのか。

A2 昨年度の見直しについては、当初検討していた路線に関しバス事業者において精査を重ねた結果、規模を縮小し、3路線の運行経路、ダイヤの見直しが行われた。

今年度は、11月に予定されている帯広厚生病院の移転にあわせて、移転先の白樺通を經由している5路線において、病院敷地内への入り込みを予定しており、病院入口付近に乗降場所や待合場所が確保される方向で調整中である。

なお、新たな運行経路・ダイヤについては、10月頃には周知される予定である。

Q3 同じ基本方針1にある、バスターミナル待合所の老朽化対策として「おびくる」が5月にオープンした。利用者数の状況や利用者及び実際に勤務しているバス会社社員からの評判、併せてオープンしてからの特徴点や特徴的なことがあればお聞かせいただきたい。

A3 「おびくる」を訪れる方や待合を利用される方の具体的な人数は把握できないが、バス事業者からは、従前施設と比べて利用者は増加していると聞いている。待合ベンチの席数を40席に増やしたところであるが、そのうち20～30席は利用されていることが多いとのこと。

利用者やバス事業者からは、「以前よりとてもきれいになった」「広くて明るい」「空調が快適になった」など好評をいただいております。これは、建て替え前と比べて待合スペースを約2倍に広げ、アウトドア観光のPRスペースや、時刻表などの情報を表示する液晶画面を設置したことなどによって、快適で便利になったことが要因と考える。

Q4 「おびくる」にはアウトドアブランディングや観光客・旅行客用の展示スペースがあるが、利用状況はどうなっているのか。またレンタサイクルの貸し出し状況はどうか。

A4 アウトドア用品の展示、十勝管内観光パンフレットの設置、地域の魅力をPRする動画を放送し、バスターミナル利用者に利用されているほか、観光客と思われる利用者がパンフレットを手に取り、休憩しながら動画を見ている様子が見られる。

レンタサイクルについては、4月から6月末までの貸し出し台数の合計は、前年同時期対比2割増しの500台となっている。居住地別の利用者数構成比は、市内が約1割、道内が約2割、道外が約7割となっている。「おびくる」整備により、利用者が増加傾向にあり、観光客の利用も伸びているものと推察されること、サイクルツーリズムの人氣が高まっていることによるものと考えている。

Q5 基本方針2「生活と交通の拠点の整備」の中で乗り継ぎ拠点の設置がある。過去の一般質問で「商業施設や学校が集積している西帯広地区や稲田地区の大型商業施設にバス路線を接続させることで、利便性の向上を図る」としており、この項目も今年度実施となっている。現時点での状況と見通しはどうなっているのか。

A5 乗り継ぎ拠点については、路線・ダイヤの見直しとあわせて利用しやすい環境づくりを行うものである。現在のところ、例示された西地区や稲田地区において、大幅な路線見直しの予定はないことから、当面は商業施設側の協力を得て、待合場所の確保や時刻表の掲示など、バス利用者の利便性向上を図っていく考えである。

Q6 同じく基本方針2にある「多様な移動手段の連携による利便性の向上」についても今年度から運用開始となっている。具体的に何をどのように連携させ、どのようなサービス改善につなげようとしているのか。また、現時点での見通しはどうか。

A6 これまで、観光面におけるバスとタクシーが連携したサービスの提供を十勝圏二次交通活性化協議会において実施している。また、十勝バス株式会社においては「年末深夜バス」として、タクシーとの乗り継ぎサービスを実施している。

今後もバスと、バス以外の交通モードとの連携については、利便性の向上につなげるよう交通事業者とともに考えてまいりたい。

Q7 現状については理解するが、これまでの答弁を聞いていて、全体的にはトーンダウンした感が否めない。現実的な対応とも言えるのかもしれないが、当初計画していた「高み」をめざすには、いささか物足りない。もっと言えば、昨年段階の答弁から後退した感じを

受ける。なぜそうなったのかという要因と計画は5年間であることから、今後どのように進めようとしているのか最後に伺う。

A7 路線・ダイヤの見直しについては、昨年度バス事業者において、採算性や路線間の接続性、乗務員確保等の観点から精査を行った結果、当初の検討案の全てを実施するのは困難であるという結論に至ったもの。

今後の計画の推進にあたっては、当初よりも規模は縮小したものの、本年度も一部路線・ダイヤの見直しを行うとともに、基本方針に基づき、情報提供や利用促進等の施策を進め、誰もが利用しやすく持続可能な公共交通の実現をめざしてまいりたい。